

2025 年 6 月 22 日午前 10 時 30 分

聖霊降臨節第 3 主日 主日礼拝

司会 川上 盾
奏楽 森下 滋

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)

前 奏

招きのことば ヨハネ 3:5-8(抜粋)

讃美歌 164「バビロンの流れの」 一 同
交読詩編 126:1-6(P.149/145)

祈 り 司会者
《関東教区お祈りカレンダー》
小出教会 高田教会 新井教会
(主の祈り)

讃美歌 390「主は教会の基となり」 一 同

聖 書 新約:コロサイ 3:12-15(P.371)

メッセージ『愛は絆』

祈 り 森下 滋 牧師

讃美歌 520「真実に清く生きたい」 一 同

献 金 一 同
(献金感謝の祈り)

信仰告白(カナダ合同教会=歌) 一 同

頌 栄 27

祝 祷 森下 滋 牧師
後 奏
報告・紹介

<招きのことば>ヨハネ 3:5-8(抜粋)

人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。…だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。…風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。

《6 月礼拝当番》 徳江由利 岡安茂能
伊藤暁啓 藤岡純子
田村佳奈 渡辺雅之

《今週の集会・行事》

◎ 本日 14:00 牧師 JAZZ II

◎ 23 日(月)10:30 群馬地区教師会(原市)

◎ 24 日(火) 牧師、前橋こども園

◎ 28 日(土)10:00 会堂清掃 A 組

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『その日のために』

聖書:旧約:イザヤ 60:19-22(P.1161)

新約:フィリピ 2:12-18(P.363)

讃美歌 347(1,3,5), 348, 417, 347(4)

交読詩編 67:1-6(P.74/70)

司会:田村 啓 奏楽:金井文子

《予 告》

◎ 7 月定例役員会 7/6(日)礼拝後

◎ 創立 139 周年記念礼拝 7/13(日)10:30

メッセージ:田中浩一郎牧師(秦野教会)

(田中牧師は、当日のCSでもお話をして下さいませ)

◎ 婦人会例会(映画会) 7/17(木)10:00
『オットーという男』(2022 年アメリカ映画)

《報 告》

◎ 森下滋牧師 プロフィール

1975 年横浜生まれ。中学生の頃よりジャズ・ピアノを始め、大学入学時よりプロ活動を始める。綾戸智恵、サリナ・ジョーンズといった錚々たるシンガーのバックを務めるなど、精力的に活動。2007 年のモントレー・ジャズ・フェスティバル(世界三大ジャズ・フェスティバルのひとつ)に自身のバンドで出演。その後牧師となる志を立て、東京神学大学、および韓国・監理教神学大学院に学ぶ。東神大での修士論文は、東神大で初めてとなるフェミニスト神学に関する内容(『イエスに触れた女の穢れと受けた抑圧に関するフェミニスト視点からの一考察』)。現在は聖学院中学・高校(東京)でチャプレン(学校付牧師)を務める。前橋教会には 2 年前の“教会 de JAZZ”ゲスト 3℃(サンド・シー)の一員での来会以来となる。本日は礼拝メッセージ・奏楽・祝祷と、フルスペックでのご奉仕、心から感謝します。午後 14:00 からは川上牧師とのコラボによる“牧師 J A Z Z II”です。どうぞお楽しみに！

◎ CS 夏期キャンプ (7/25-26 赤城バグキャンプ)

今年は金曜日～土曜日にかけての開催です。先週より案内が始まっています。よいキャンプとなりますよう、お祈り下さい。

◎ 婦人会例会 (at 岩瀬宅 6/19)

ご自宅を解放して下さい、総勢 21 名が集まる盛会でした。礼拝の後、育雄さん手作りのハッシュド・ビーフをいただきました。食後の交流の時にはお二人の「なれそめ」を聞き、お二人の愛唱讃美歌(デボラさん 361「この世はみな」、育雄さん 533「どんなときでも」)を歌いました。暖かいおもてなしに心から感謝いたします。

《先週の集会》

	礼拝堂		オンライン	献 金
主 日 礼 拝	32		21	22,460
	ジュニア	シニア	初・大人	計
C S 午後礼拝	4	0	12	16
婦人会例会	21			

《メッセージ》「聖霊に押し出されて」川上牧師

イザヤ 6:1-8, エフェソ 1:11-14(6 月 15 日)

▼先週、ペンテコステ礼拝の前日、新島学園中高聖歌隊の定期演奏会に出かけました。この定演をもって引退する 3 年生 3 人だけによるハンドベルの演奏を聴いて心が熱くなった。ペンテコステ前日に、聖霊による導きを受けたみたいだった。▼聖霊の導き、それは聖書が示す神さ加からの働きかけのことである。人間には神さまのことは本当のところは分からないのだが、キリスト教ではそれを 3 つの手がかりによってとらえようとしてきた。すなわち、「父・子・聖霊」による「三位一体の神」である。▼父なる神＝造りぬし、子なる神＝救い主イエス・キリストに比べて、聖霊なる神は一番とらえどころがないように思える。ある意味、得体の知れない世界(怨霊、霊媒師)にも流れてゆきかたない世界である。しかも聖書は、いろいろな形で聖霊の導きを受けて歩む人の姿を通して、その働きを表そうとする。その一人が旧約の預言者イザヤ(初代)である。▼今日の箇所はイザヤの召名の場面である。普通預言書は時代背景や周辺諸国との関係といった、社会情勢と共に解釈することが多い。しかしこの箇所はそのような情勢から離れて読んでも、一人の人間が大切な役割を託され引き受けてゆくといった、誰にでも起こり得る状況へのメッセージとして読むことができる。▼ある日イザヤは幻の中で不思議な光景を目の当たりにする。神殿の周りでセラフィム(天使)が飛び交い、神を賛美する光景である。これは通常、人間が見ることができない神の世界を垣間見たということになる。イザヤはつぶやいた。「災いだ。私は滅びる。罪人である私が神を見たからだ」。 “神を直接見たものは死ぬ” そんな信仰がイスラエルには古くからあった(ヤコブ、モーセ)。▼するとセラフィムの一人が燃える炭火をイザヤの唇に当て、「あなたの罪は赦された」と語った。イザヤが何か功績を挙げたからではない。神の一方的な罪の赦しが宣言されるのである。▼イザヤは次なる神の言葉を聞く。「誰を遣わそうか。誰が我々に代わって行くだろうか」。直接イザヤに名指して語られた訳ではない。しかしその言葉を聞いてイザヤは応える。「ここに私がいます。私をお遣わして下さい」。▼預言者の働き、それは声をかけられて二つ返事で引き受けられるほど簡単なものではない。時に迫害に遭うこともある、大変な仕事である。それをイザヤは引き受ける。強要されてではなく、逃げられない状況に追い込まれてでもない。あくまで自発的意思で。しかし聖書は、その決意の背後に聖霊の導きがあったと語るのだ。▼そのような聖霊の導きをどんな言葉で表したらいいだろうか。それは「そっと背中を押す」という言葉に尽きるのではないだろうか。聖霊に押し出される形で、イザヤは預言者の召命を受けとめる。いやいやではなく、心に喜びを感じながら…。その聖霊の風は、今日私たちに吹きかけられているのである。